

佐賀未来創造基金に大賞

地域再生大賞 赤水頭彰会は優秀賞

地域活性化に成果を上げた団体を、地方新聞46紙と共同通信が表彰する「第11回地域再生大賞」コロナ禍を越えて」の各賞50団体が30日、決まった。大賞（副賞100万円）に、市民や企業から募った資金を子育てやまちづくりなど広い分野の地域活動に配分する「佐賀未来創造基金」（佐賀市）が輝いた。（21面に特集）

行政や企業と協働、各市民活動に寄り添う支援で地域課題の解決に貢献。新型コロナウイルス対応に当たる医療従事者らへの迅速な助成も評価された。

準大賞（各15万円）は、インターン受け入れにより金属加工産地の中小企業と全国の大学生をつなぐ「つばめいと」（新潟県燕市）、赤字経営から脱して地域に開かれた施設に生まれ変わった「志摩市民病院」（三重県志摩市）の2団体。店舗の新規開業や移住を

支援する「東彼杵そのぎひとこともの公社」（長崎県東彼杵町）に、地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞（10万円）が贈られる。

ブロック賞（各10万円）

は次の5団体。BOOT（ブット）（福島県西会津町）▽小さな村総合研究所（山梨県丹波山村）▽RENEW実行委員会（福井県鯖江市）▽三方よし研究会（滋賀県東近江市）▽おかやま親子応援プロジェクト（岡山市）優秀賞は、「長久保赤水頭彰会」（高萩市）など41団体。新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、東京で各団体を表彰する例年の方式は見送られる。

長久保赤水頭彰会の佐川春久会長は優秀賞受賞に「活動の励みになり、ありがたい。赤水のことがじわりじわりと知られ、プラスの方にきている。地域を良くするまちづくりにつながっていけば」と話した。